

第4回：中国児童発育と行動科学研究会に参加して

福井県小児療育センター 平 谷 美智夫

中国児童発育と行動科学研究会は、わが国の小児精神神経学会に対比される学会で、広大な国土とまだまだ発展途上である中国の事情も反映して1年おきに開催されています。第3回の本学会には森永良子先生が特別講演され、本会報第18号でその概要を報告しておられます。昨年秋来日され、福井LD研究会とも交流のある、本学会常務委員の中山医科大学児童少年衛生学教室副教授の静進先生（Dr. Jin Jing）から、注意欠陥多動障害について講演依頼がありました。香港返還を迎えた今年、日本のメディアは連日中国を報道しており、中国は最も興味のある国でした。また内蒙古出身の暖かいお人柄の静進先生に再会することも楽しみでした。

私の発表の要旨は中国語に翻訳されて抄録集に印刷されており、私の講演も日本語に堪能な静進先生が通訳されるとのことで、気楽な気持ちでおりました。しかし出発が近づくにつれ、視覚情報もできるだけ利用したいと思うようになり、出発2週間前に50枚あまりのスライドをすべて中国語に作り直すことにしました。中国語に翻訳することも一仕事ですが、簡略化された現代中国の漢字は日本語ワープロにはなく、元の字（正字）を探し出すのは大変困難でした。翻訳は一部は静進先生、一部は中国生まれの県立病院検査室の藤田先生に教えていただき、漢字指導は漢詩をたしなまれる小児療育センター坪田所長の援助を受けました。出発前3日間は半徹夜の作業でしたが、日本語のワープロでなんとか中国語のスライドができたのは驚きでした。

道中ひたすら眠っていましたが、上海空港で静

進先生の笑顔が見えた時はほっとしました。学会の主催校である上海第2医科大学の車は自動車・自転車・人であふれる道路を警笛を鳴らしながらフルスピードで走ります。昔の神風タクシーもこんなのであったのかと思いながら、至るところで道路や工場などの建設作業の続く上海郊外の光景を眺めているうちにホテルに到着しました。

海外からのゲストは、私を含めて米国ウィスコンシン大学小児科のDr. Mark D. Simmsと私を推薦して下さった森永先生の3人でした。教育講演が10題、一般演題は26題でした（表1）。静進先生は昨年日本留学中に学んだことなどを交えてLDの臨床神経心理学検査について、教育講演されました。会場は小さなホールですが、市内のホテ

目 录

一、講座

1. 环境与儿童发育	郭 迪	1
2. 学习障碍及注意缺陷多动障碍的临床特征及治疗教育评价	平谷美智夫	5
3. 儿童学习障碍现状及其治疗教育	森永良子	9
4. 不正常发育中儿童的鉴别诊断	Simms	13
5. 儿童注意力缺乏—多动综合征	Simms	24
6. 儿童饮食行为	刘湘云	28
7. 营养与小兒智能和行為的关系	洪昭毅	32
8. 铅对儿童行为发育影响	沈晓明	34
9. 儿科临床神经心理学检测	静 进	37
10. 感觉统合训练的理论与临床实践	金星明	44

二、论文交流摘要

1. 儿童注意障碍多动综合征致病因素探讨	苏 渊	48
2. 儿童多动症 230 例分析	刘素云	49
3. 对 617 例学习困难儿童的心理咨询体会	曲文军	49
4. 儿童多动症患者事件相关电位（P ₂₀₀ ）的探讨	刘桂珍	50
5. 学习障碍儿童在本顿视觉保持测验中反	王梦龙	50

表1 学会抄録集

一般演題は26題。感覚統合障害、チック、遺尿症、小児喘息、食欲不振・偏食、中学生の喫煙、早期胎教、脳性麻痺児の脳波所見など。

ルなどで開催されることの多い日本や米国での医学会風景とはかなり雰囲気が異なりました。参加者には次のような特徴がありました。80%近くが女医さんで、年齢では60歳代と思える年輩の方がリーダーですが、それに続く世代が30代後半といういびつな構造です。40-50歳の世代、即ち私の世代は、文化大革命のために学問する環境が与えられず空白となってしまっています。1960年代-70年代の私の学生時代、文化大革命を礼賛していた当時の一部マスコミの報道などが思い出されました。わが国にもよく似たことがあります。医学部では昭和28年度卒業者に教授が多く“華の28”という言葉があります。戦争のためにその上の学年の優秀な人たちは学問どころではなかったからでしょう。静進先生も文革中はモンゴルの平原でひつじを追っていたとのことで、文革がもう少し続いておれば、今もひつじを追っていたでしょうと笑っておられました。

私の持ち時間は2時間でしたが、苦勞したスライドと静進先生の見事な通訳のおかげでかなりの内容を伝えることができました。中国人と日本人とでは漢字において、お互いが聴覚的LD（というよりほとんど相互理解不能）ですが視覚的には相互理解が可能（LDレベル?）です。しかし、講演のあとの質問の内容から、LDや注意欠陥多動障害の概念がまだ十分理解されていないように感じました。



学会会長江梅先 (Mei-Xian Wang) 上海第2医科大学小児科教授、許積徳 (Xu Ji-ei) 教授、静進先生

学会最終日に上海第2医科大学付属の新華小児病院を見学しました。上海第2医科大学には、1学年1,000人（歯学部などを除いても800人、日本では100名が一般的）の医学生が在籍し、ベッド数1,000の5つの付属病院をもっており、学生はそれぞれの付属病院に所属しているそうです。新華小児病院はベッド数300の中国有数の小児病院だそうですが、カルテ・設備などもまだまだで、これからという感じを受けました。発達クリニックでは、ちょうど鉛中毒によると思われる注意欠陥多動障害の男の子の診察中でした。中国では、排ガス規制のない自動車が走るの、鉛中毒が大きい問題だそうです。

学会終了後、風光明媚な古都、杭州へのツアーが計画されていました。同行した小児科医は全員米国留学経験者で我々の公用語は英語でした。森永先生は残念ながら所用で帰国されましたが、Dr. Simms はNGOの活動で南米や中国で活躍しておられ、米国でのLD事情などもあいだに挟んでの、日米中3カ国の人間のさまざまな話題は実に有益で楽しく、中国をさまざまな角度から見ることができました。出発前にスライド作成に苦勞したこともあって、外来語の中国語表現に興味を持って眺めていました。コカコーラ・ケンタッキーフライドチキン・ペプシなどの漢字での表現が面白かったです。カタカナを発案し外来語と分かるように、そのままの発音での表現を可能にした日本人の知恵は大したものだと思います。し



前新華小児病院院長郭迅先生と Simms Dr 夫妻



両親（2）・祖父母（4）に囲まれた一人っ子（小皇帝）

かし、静進先生は、中心という立派な言葉があるのに、なぜ小児療育中心と言わないで療育センターなどという言葉を使うのか不思議だと語っていました。

道中、名所旧跡見学の合間にも自然と子どもや家族連れを観察していました。一人っ子政策の時代の子どもがすでに大人になっていますので、一人の子どもにやはり一人っ子の両親、それに祖父母4人、合わせて6人の大人に大切に育てられた、きれいな洋服を着たやや肥満傾向にある栄養状態の良い子どもはまさに小皇帝そのものです。子どもの発達も気になりますが、彼らが担う近い将来の老人問題もまた深刻な中国のテーマになるでしょう。

1週間の滞在中、道路を横断するのは命がけでした。日本の交通マナーも

誉められたものではありませんが、中国の交通マナーが日本並になるのにあと少し年月がかかりそうです。更に、町は騒音と大気汚染が深刻で、酸性雨などわが国が受ける影響も心配ですが、この大気の中で生きる中国人の健康被害はもっと深刻になるでしょう。免疫学や内分泌学など純生物学的な医学の研究方法は欧米諸国と日本や中国で基本的に違いはなくて良いと思いますが、子育てや表意文字である漢字の読み書き障害などのLD関連分野では、文字も共通点が多い中国と日本で協同研究なども可能です。更に個々の分野で日本の学会が援助できることも多くあるように思います。静進先生は今、中国で最初のLDの教科書の執筆にとりかかったばかりだとうれしそうに語っていました。

中国は文化大革命の混乱を処理しつつ、改革開放へ離陸したばかりです。観光地の大衆レストランで昼食をとる多くの家族連れを前に、私はその背景の13億5千万の巨大な胃袋やその潜在的な生産力と国際政治に与える影響力などを想像しながら、これからの政治的混乱が最小限に押さえられて、中国が豊かな民主主義国家にうまく脱皮して行くことを祈らずにはおられませんでした。



魯迅公園で。遠足の小学生は全員ケンタッキー（肯德基）フライドチキン。看板はペプシコーラ（ちなみにコカコーラは可口…と書く）